



フジ・メディア・ホールディングス サステナビリティレポート 2022

フジ・メディア・ホールディングス サステナビリティレポート2022

編集方針

本レポートはフジ・メディア・ホールディングス各社が2021年度に行った活動をまとめたものです。主たる事業である放送とエンターテインメントをいかして、多岐にわたる活動を行ってきました。本レポートはそれらを皆様にご理解頂きやすいよう編集しました。

対象期間 2021年4月1日～2022年3月31日(※一部この期間以外の情報も含んでいます。) **発行日** 2022年10月7日

ホームページでもSDGs・CSRに関する情報を開示しています。 <https://www.fujimediahd.co.jp/csr/>

✉ csr.ss@fujitv.co.jp | フジ・メディア・ホールディングス サステナビリティ推進室

会社概要

商号	株式会社フジ・メディア・ホールディングス FUJI MEDIA HOLDINGS, INC.
事業内容	認定放送持株会社
事業所	本社 〒137-8088 東京都港区台場2丁目4番8号
設立	1957年(昭和32)11月18日 株式会社フジ・メディア・ホールディングスは、2008年10月1日付けで、認定放送持株会社への移行に伴い、「株式会社フジテレビジョン」から商号変更し、「株式会社フジテレビジョン」の事業は新設の「株式会社フジテレビジョン」が承継しました。
資本金	1,462億35万円
連結従業員数	6,492名(2022年3月末時点)
代表者	代表取締役会長 宮内 正喜 / 代表取締役社長 金光 修

発行:フジ・メディア・ホールディングス



フジ・メディア・ホールディングス

サステナビリティ宣言

フジ・メディア・ホールディングスは、放送の公共的使命と社会的責任を常に認識し、メディア・コンテンツ、および、都市開発・観光を中心に幅広い事業活動を通じて、国民の皆様の豊かな生活に貢献することを経営の基本方針としています。

視聴者の皆様をはじめ、各事業のお客様に質の高いコンテンツ・サービス・商品をお届けするとともに、ステークホルダーの皆様と信頼に基づくパートナーシップを築きながら、未来にわたり企業活動の持続と安定した成長をめざします。

また、持続可能な開発目標・SDGsの達成に向けて、メディアの強みである創造力と発信力をいかながら、グループとしての役割を果たして参ります。

●地球環境のために

メディアグループとしてあらゆるコンテンツを通じて気候変動等地球環境の危機の現状をお伝えすることで、皆様の未来に向けた行動に資する情報を提供して参ります。また、我々の事業活動によってもたらされる環境への影響を認識し、負荷の低減に努めます。

●誰もがいきいきと暮らせる社会のために

人権を尊重し、多様な価値を受け入れるインクルーシブな社会をめざします。地域社会とのつながりを創出し、未来を担う子どもたちや、あらゆる世代の人々の健康で豊かな生活に貢献します。

●働きやすい職場環境のために

当社グループにおいて多様な「価値」を生み出す要は「人」です。ジェンダーや年齢・障害の有無に関わらず、全ての従業員・スタッフが個性を発揮し、いきいきと働き続けられる職場づくりに努めます。

●ステークホルダーの皆様とともに

すべての事業は、視聴者の皆様やお客様、お取引先、出演者や協力会社の皆様、株主、地域の皆様等、様々なステークホルダーとの良好な関係の上に成り立っています。引き続き信頼関係を堅持しながら、常に高い法令遵守の意識を持ち、将来にわたって皆様から求められる企業グループをめざします。

2022年5月18日 策定

当社は、2022年5月TCFD(気候関連財務情報開示タスクフォース)の提言への賛同を表明しました。気候関連のリスクと機会について今後さらに積極的な開示を行って参ります。

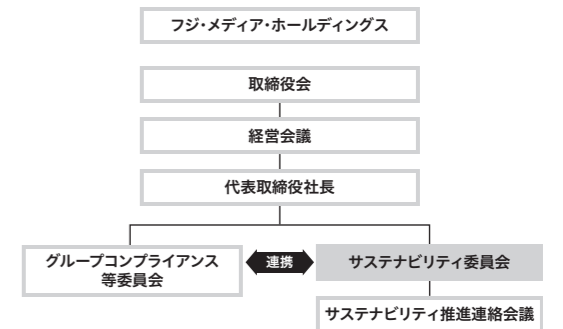
フジ・メディア・ホールディングスは、2018年4月より 国連グローバル・コンパクトに署名しています

企業は利益を追求する以前に、良き市民であるべきという考え方のもと、責任のある「企業市民」として、世界で起きている様々な問題を解決するために行動することが求められています。国連グローバル・コンパクトは、国連が提唱する人権・労働・環境・腐敗(強要や贈賄等)防止に関する普遍的な10原則を守ることを[約束]するものです。1999年の世界経済フォーラム(ダボス会議)において提唱されたもので、世界161ヶ国・約16,790の企業・団体が署名し、「人権」「労働」「環境」「腐敗防止」の4分野・10原則を軸に活動を展開しています。日本国内では506の企業・団体が署名しています。(2022年8月時点)



サステナビリティ推進体制

2022年6月に代表取締役社長を委員長とするグループ横断のサステナビリティ委員会を設置しました。当委員会は、持続可能な社会の実現への取り組みを強化するため、グループコンプライアンス等委員会とも連携して、課題・リスクを共有し、その対策にあたって参ります。なお、その下部組織としてサステナビリティ推進連絡会議を設け、各社の活動報告や新たな企画の立案などを行っています。



重点的に取り組む課題 ～自社の事業活動と関連性があるもの～

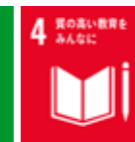
■ パートナーシップで目標を達成する

SDGsの課題解決にはあらゆるステークホルダーの参加が不可欠です。「情報伝達の媒介者」であるメディアは、パートナーシップを生むためのきっかけづくりを行います。



■ 子どもたちのために

未来を担う若い世代を応援します。



■ 共生社会をめざして

全ての人が生きづらさを感じない社会をめざします。



■ 地球環境のために

放送や自社の事業を通じて環境への負荷を減らします。



■ 災害復興支援・防災

クリエイティブな力で被災地の復興をめざします。



トップメッセージ

TOP MESSAGE

サステナブルな社会を 目指して

～グループ各社が結集～



フジ・メディア・ホールディングスのサステナビリティレポートをご覧いただきまして、どうもありがとうございます。

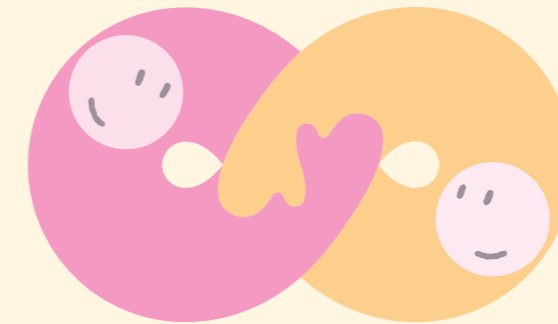
当社は、放送の公共的使命と社会的責任を常に認識し、放送メディアを中心とした様々な事業を通じて国民の皆様の豊かな生活に貢献することを経営の基本方針としています。コンテンツの制作やエンターテインメントの提供者として、信頼される報道機関として、また都市開発・観光の担い手として、将来にわたり社会から求められる企業グループであるために、環境の変化に的確に対応しサステナブルな事業運営に努めて参ります。

SDGsについては、2018年4月に当社が「国連グローバル・コンパクト」に署名したほか、フジテレビジョン、BSフジ、ニッポン放送が「SDGメディア・コンパクト」に署名するなど、いち早く取り組んできております。傘下のこの3社が2021年1月に始めたSDGs推進キャンペーン「楽しくアクション! SDGs」は、2年目に入り、より充実した内容となりました。特別番組やレギュラー番組等を通じて、気候危機など様々な社会課題を伝え、アクションを起こすきっかけ作りに寄与できればと考えており、今後も「楽しくアクション! SDGs」を継続し、更に発展させていく所存です。

2021年度もコロナ禍により、多くの活動が制約を受けましたが、フジテレビの夏のイベントでは初めてバーチャル空間を活用、SDGsに関するコンテンツを提供したり、ステイホームを余儀なくされる子どもたちのために始めた「デジタル紙芝居」もより充実を図るなど、立ち止まることなく様々な試みにチャレンジして参りました。これからもいち早くニーズをとらえ、形にするという姿勢を忘れずに、社会貢献を続けて参ります。

代表取締役社長 **金光 修**

活動スローガン



つなげる笑顔 つながる心

メディアの力でできること∞
無限大

フジ・メディア・ホールディングスは
多様なメディアの集合体です。
各社業態は異なりますが、
共通する思いは「創造する力」を通じて
人と人をつなぎ、笑顔をつくること。
社会の一員としてどんな社会課題の
解決に結びつけられるかを常に考え、
行動し続けます。

●活動方針

フジ・メディア・ホールディングスは、多様な事業活動を通じて社会へ貢献すると共に、視聴者・聴取者・読者・利用者・消費者の皆様の顧客満足度の向上、経営環境の変化に対応した新たな企業価値の創造と持続的な成長をめざしています。また、グループ・ガバナンスの構築、グループ・コンプライアンスの確保を図り、適時・適切な情報開示を行っています。

●2021年度活動体制

ホールディングス各社のCSR・SDGs担当役員から構成される[CSR・SDGs推進委員会]を2009年から年に1回開催してきました。またその下部組織[CSR・SDGs推進連絡会議]を開催し、活動の報告や今後の展開を議論しました。これらの機能は2022年6月より[サステナビリティ委員会]に移し、より幅広い観点から活動を推進していきます。



フジテレビジョン/BSフジ/ニッポン放送/仙台放送/共同テレビジョン/フジクリエイティブコーポレーション/NEXTEP/フジアール/フジ・メディア・テクノロジー/ポニーキャニオン/フジパシフィックミュージック/DINOS CORPORATION/クオラス/サンケイビル/扶桑社/フジミック/エフシージー総合研究所/フジキャリアデザインの18社とフジ・メディア・ホールディングス

SDGs達成に向けた取り組み

SDGs(Sustainable Development Goals)持続可能な開発目標は、貧困、環境、人権等地球規模の様々な課題を解決するための17の目標のことです。2015年に国連で採択されたもので2030年までの解決をめざしています。フジ・メディア・ホールディングス傘下のフジテレビ、BSフジ、ニッポン放送は、「SDGメディア・コンパクト※」に署名し、メディアの発信力をいかし現状を「伝える」ことで、世界を「変える」きっかけづくりに努めています。



※「SDGメディア・コンパクト」とは、世界中の報道機関やエンターテインメント企業に対し、その資源と創造力でSDGs達成のための活動を促すことを目的とした協力推進の枠組みです。



みんなでアクションを起こせば、未来はきっと変えられる!

「楽しくアクション! SDGs」は、フジ・メディア・ホールディングス傘下のメディア企業が集結して2021年にスタートしたSDGs推進プロジェクトです。フジテレビ・BSフジ・ニッポン放送の3社がそれぞれの強みをいかして、番組を通じて持続可能な社会に向けた発信を行っています。2022年2月21日～3月20日にかけての1ヶ月間は、推進強化月間とし、多数の持続可能な未来に向けた番組を視聴者・聴取者に届けました。

今、地球上で起きていることを映像とともに「伝え」、その上でひとりひとりがアクションを起こす「きっかけ」をつくることをめざして、数多くの番組を制作・放送しました。

映像・音声を持つ人の心を動かす力と、テレビ・ラジオの発信力・伝える力を駆使し、温暖化の現状や、このままいくと地球はどうなってしまうかなど、ドラマ・報道・情報番組・バラエティ番組等多様な形で伝えました。また、ひとりでも多くの方に見て、聴いて頂けるようTVer、FOD等見逃し配信やPODCAST配信等も積極的に行いました。



フジテレビの取り組み [特番]

『木のストロー』



サステナブルなアイテムとして注目の“木のストロー”を、住宅メーカー広報課勤務の女性が数々の困難を乗り越えて、ストローを完成させるまでの実話をドラマ化し、環境問題を身近に感じてもらうきっかけを提供しました。

・原案:『木のストロー』アキュラホーム 西口彩乃・著(扶桑社)
[フジテレビ 2022年2月26日 15:30~16:30放送(関東ローカル)]
[BSフジ 2022年3月6日 18:00~19:00放送]

『EXITの未来を本気で考えるII〜フューチャーランナーズSP〜』



レギュラー番組『フューチャーランナーズ』(P7参照)の特別編の第2弾。今回は気候変動をテーマに環境先進国アイスランドを取材。地球温暖化の影響で消えゆく氷河や、地熱エネルギーに着目した最先端の施設「オルカ」に日本のメディアとして初潜入。地球の未来をリアルに体感できるような演出を行いました。

[フジテレビ 2022年3月5日 15:30~16:30放送(関東ローカル)]

『世界のアップレ女性列伝 SDGsバラエティ 生様様様』



国際女性デー(3月8日)に合わせ、世界の女性たちのアップレな生き様を楽しみながら、生き方の多様性、SDGsについて考える番組を放送。社会で活躍する様々な女性たちの生き様を見て、知ってもらうことで、SDGsのゴール5「ジェンダー平等」について考えるきっかけを提供しました。

[フジテレビ 2022年3月10日 20:00~21:54放送]

『地球HEROES〜牛のゲップから地球を救え!〜』



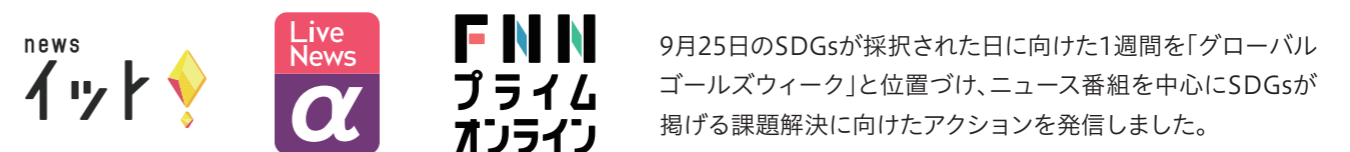
2021年に続くSDGs特番第2弾。「牛のゲップ」に注目し、牛から出るメタンガス削減に取り組み、牛と共に“持続可能”な未来をめざす酪農家、畜産農家、大学教授、飲食店、企業等“地球HEROES”の取り組みを取材し放送。“地球HEROES”たちの取り組みをEXITならではの視点で、チャラク、アツク、伝えました。

[フジテレビ 2022年3月12日 14:30~15:25放送(関東ローカル)]

2022年2~3月には上記の特別番組を放送した他、報道番組や情報番組等でSDGsに関する企画を集中して放送



2021年9月の国連総会に合わせたSDGsウィークを実施



9月25日のSDGsが採択された日に向けた1週間を「グローバルゴールズウィーク」と位置づけ、ニュース番組を中心にSDGsが掲げる課題解決に向けたアクションを発信しました。

フジテレビの取り組み【レギュラー番組・その他】

『フューチャーランナーズ～17の未来～』



SDGsをテーマにしたミニ番組『フューチャーランナーズ』を2018年7月から制作・放送しています。テレビの強みである「発信力」と「クリエイティブ能力」を活かして、課題解決に向けて熱心に取り組む人々を紹介することで、SDGsを身近に感じてもらうとともに、多様な活動が認知されパートナーシップを生むきっかけになればと考えています。これまでに200人以上を取材し、より良い社会をめざす“ランナー”たちの熱い思いを伝え続けています。

[フジテレビ 毎週水曜 22:54～23:00放送(関東ローカル)]
[BSフジ 毎週土曜 21:55～22:00放送]
●公式サイト <https://www.fujitv.co.jp/futurerunners/>

『体感！サステナWAVE』



フジテレビアナウンサーが、誰でも気軽にできて、日々の暮らしを豊かにする、サステナブルな取り組みを自ら体験レポートします。

[毎週火曜 22:54～23:00放送(関東ローカル)]
●TVerで放送後7日間見逃し配信
●アナウンサーのインスタとも連動

『めざまし8』



EXITが月1回のレギュラーコーナー「EXITのSDGsで地球のバイブスいとあがりけり！」でサステナブルファッションや過疎化問題等SDGsにつ

ながる様々な活動取材し、スタジオで伝えています。
[毎週月～金曜 8:00～9:50放送]
●「めざまし8チャンネル」Youtube動画 <https://youtu.be/s7GyBchtjbo>

『GO!GO!チャギントン』



子どもたちに大人気のチャギントンで月1回、みんなの未来について今できることをチャギントンと一緒に親子で学べるコーナーを放送しています。

公式サイトより過去の放送をご覧ください。
[毎週日曜 6:15～6:30放送]
●公式サイト <https://www.fujitv.co.jp/chuggington/index.html>

フジテレビCSR・SDGs推進室編
「10代からの地球の守り方
SDGsの教科書」を出版



SDGsの169のターゲットを全て掲載するとともに、解説文を添えた書籍を出版しました。より深く理解できるよう、アナウンサーや記者・プロデューサーによる、実体験に基づいたコラムを掲載しています。

[誠文堂新光社より2022年3月15日発売]

「Voice of Youth Empowerment サステナ英語プレゼンテーションチャレンジ」

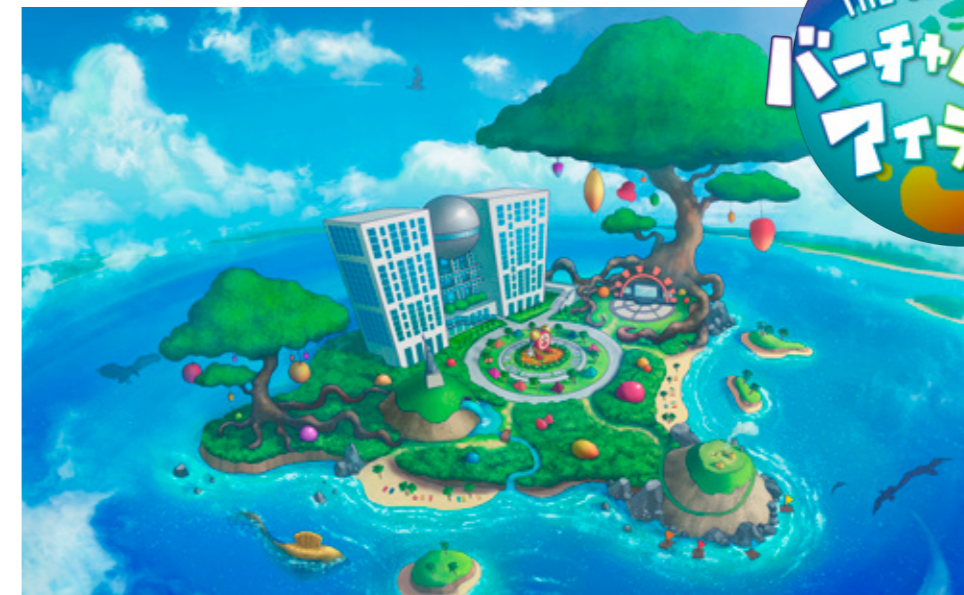


SDGsをテーマにしたミニ番組『フューチャーランナーズ』に付与している英語字幕を使って、SDGsと英語を同時に学べるオンライン教育コンテンツ「サステナ英語レッスン」を提供しています。また、ここから派生した「Voice of Youth Empowerment サステナ英語プレゼンテーションチャレンジ～地球の未来は、キミが変える～」を開催。海外からの参加を含めた22人の若者が地球規模の課題解決策を英語で提案し、未来へ「声」を上げるオンライン配信イベントを実施しました。

[2021年11月21日オンライン配信]

フジテレビの取り組み【夏休みイベント】

バーチャル冒険アイランド



「第9回スティービー・アジア・パシフィック賞」イベント部門
“Innovation in Entertainment Events”において金賞を受賞

*世界トップクラスのビジネス賞で、コロナ禍でリアルからバーチャルイベントへ転換し、世代を問わず魅了する企画や、他のアイデアに発展できる持続可能な取り組み・革新性等が高く評価されました。

<実施期間> ●リアル開催:2021年7月21日～9月5日 ●バーチャル開催:2021年8月14日～9月5日

コロナ禍で人と人がつながりにくい今だからこそ、「心を通わせ合い、一緒に楽しめる空間を提供したい」そんな思いで、恒例の夏イベントをバーチャル空間で展開しました。バーチャルステージでの「めざましライブ」や、障害者、性、世代等に誰もが一緒に楽しめる芸術祭「True Colors Festivalスペシャルライブ」、「SDGs CHALLENGE 2021 未来を変えるFUTURE TALK」や「シークレットシエルSDGsクイズ」等、SDGsをテーマにしたコンテンツを多数提供しました。

■ 未来を変えるFUTURE TALK



“地球の未来”を持続可能にするために今、私たちにできることは何なのか？SDGsの達成期限まであと8年となる中、具体的なアクションにつなげていくため、「カーボンニュートラルとその先の未来～小泉環境大臣×Z世代～」等6つのテーマでトークセッションを開催し、配信しました。

※このトークイベントで使用した電力は、「J-クレジットを活用し、実質ゼロカーボンと再生可能エネルギー100%を実現しました。」

■ SDGsクリエイターズグランプリ

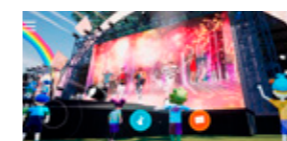


『めざまし8』とTikTokが連動した企画として、視聴者が考えるSDGsなモノ・コト・ヒトを1分以内の動画にし、TikTokに投稿してもらいました。約800本のオリジナリティあふれる動画の中からグランプリを選ぶ番組も放送しました。

総再生回数:約3,400万回

[2021年9月10日 26:25～27:25放送]
グランプリ受賞作品:モモティー「軽度知的障害の大変さ」

■ True Colors Festival スペシャルライブ



日本財団「True Colors Festival」*スペシャルライブを配信。世界で活躍する障害のあるアーティスト6組のライブを届けました。[2021年8月26日～31日の6日間]

※True Colors Festivalとは？
誰もが居心地の良い社会をめざし、パフォーミングアーツを通じて障害、性、世代、言語、国籍等を超えてみんなで楽しむ日本財団主催の超ダイバーシティ芸術祭。

BSフジの取り組み

『旅する地球レストラン! ~Traveling The Earth Restaurant~』



全国各地で、その地域ならではのサステナブルな食材やこれまではフードロスとなっていた食材の活かし方を考え、誰もが真似しやすくなるようなおいしい料理を生み出し、SDGsについても考える番組。速水もこみちさんが、とろサーモン・村田秀亮さんとNANAMIさんと共に訪れた宮城県美里町と石巻市では、サステナブルについても意識したこの地ならではの食材を手に入れ、その食材の魅力を最大限生かしたこだわりの料理を作りました。
[2021年11月20日 20:00~21:55放送]

『Earth Walker』動物と人間 共に生きるDISTANCE



滝川クリステルさんが生命の多様性と神秘に触れる大型ドキュメンタリー第10弾! 2021年のテーマは「Distance」。人間が自然を壊して動物たちの生活圏に近づきすぎ、彼らのテリトリーを侵して、日本の固有種で、北海道では古来よりアイヌの守り神だったシマフクロウの個体数が激減。シマフクロウがアイヌにとって「神」だった理由には人間と動物との「距離」が深くかわっていました。また、世界遺産に指定された知床では、ヒグマが人間によって死に追いやられており、地球という舞台上人間が守らなければならない「距離」とは何かということ北海道・道東で、シマフクロウやヒグマを取材して考えました。[2021年6月5日、12日、19日、27日シリーズ一挙放送]

『ゲームで分かる! SDGs』



半世紀以上にわたって親しまれている大人気のおもちゃ「人生ゲーム」。今回は、SDGs版の人生ゲームを使って、SDGsに関する具体的な取り組みや事例などを楽しく学びました。ルーレットの数だけコマを進める基本ルールのもと、平子(アルコ&ピース)・原千晶チームと酒井(アルコ&ピース)・大島麻衣チームに分かれて対決し、最終的にマス目を書いてあるSDGsポイントの合計点で競い合いました。ポイントゲットのカギとなる番組オリジナルのスペシャルマスでは、SDGsに関する問題が出題され、正解すると高ポイントゲットのチャンスがあり、より多くポイントを稼いで「SDGs師匠」の称号を目指す番組です。[2021年5月29日 13:00~13:55放送]

<BSフジ開局20周年スポーツスペシャル>

『THE 8 MEN'S チャリティマッチプレーゴルフ IN 川奈』



「世界ゴルフ100選」に選出され続ける、国内屈指の名コースであり、数々のドラマを生んだ川奈ホテルゴルフコース富士コースで、ツアー優勝経験者の男子プロ8人がマッチプレートーナメントに挑みました。この大会では、ゴルフが出来る社会貢献活動として、特設サイトにて選手のサイン入りチャリティグッズ販売を実施し、その売り上げと選手が獲得した賞金の50%を熱海市災害被災者支援のため、寄付いたしました。
[1回戦&準決勝 2021年9月11日 17:00~20:55/決勝戦 9月12日 19:00~20:55放送]

BSフジの取り組み

『知りたい! SDGs』



今、世界では温暖化、貧困、格差社会…様々な地球規模の課題があり、そこで、国連加盟国すべての国が2030年までに普遍的に取り組む“持続可能な目標”を定めました。それが「SDGs」。「SDGs」を子どもや若者、高齢の方にもわかるよう、番組ナビゲーターの皆藤愛子さんがSDGsの全体コンセプトやSDGsの各目標をひとつひとつわかりやすく解説。また、目標の解決に取り組んでいる事例も紹介していく番組です。
[毎週木曜 22:55~23:00放送]
●制作 NEXTEP

『プライムオンラインTODAY』



「FNNプライムオンライン」から気になるニュースをピックアップ。発生ニュースから政治、経済、文化までジャンルを問わず、視聴者が気になった24時間のニュースランキングを毎日発表。FNN各局とのネットワークを駆使した「地方発ニュース」では列島各地のニュース・話題・SDGsへの取り組みなど取材者の目線で中継なども交えてお伝えしています。
[毎週月曜~金曜 19:30~20:00放送]
●制作 NEXTEP

『リモートシェフ』



リモート時代が到来したことによって生まれた当番組は、毎回2人のシェフが、それぞれ1人のクッカーにモニター越しで指示し、制限時間内に料理を作り上げ、その出来映えを競い合う企画。思わず家庭で作ってみたいくなるレシピやプロの技満載。家庭での食品ロス改善にも寄与しています。
[毎週日曜 18:00~18:55放送]
●制作 共同テレビジョン

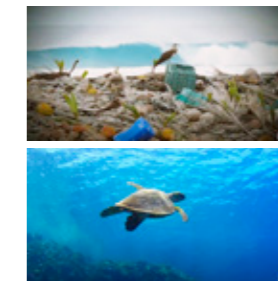
新入社員の企画を『GO!GO!チャギントン』SDGsコーナーで放送



BSフジの新入社員によるSDGsに関する企画を「チャギントン」のSDGsコーナーに反映し、フジテレビ・BSフジで放送しました。アーカイブはチャギントンホームページにて配信中。

[フジテレビ 「GO!GO!チャギントン」毎週日曜 6:15~6:30放送]
[BSフジ 「GO!GO!チャギントンスペシャル」毎週土曜 6:00~6:30放送]

SDGsを啓発するスポットCMの配信



SDGsを啓発する30秒スポットCMを社員からアイデアを募集し制作。計7パターンを作り、BSフジホームページやYouTube公式チャンネルなどで配信しています。

再生コットンのエコバック作成



番組以外でもSDGsの普及を促進する狙いで、再生コットンを使ったエコバックを制作。会社の謝品や視聴者プレゼント等で活用中です。

災害備蓄食料を寄付



災害用備蓄食料(重量504kg/数量1008食)の有効活用として(株)Stock Baseを通じ、神奈川県内の団体へ寄付しました。

ニッポン放送の取り組み

『一緒にアクション! SDGs~できることから、はじめませんか?~』



2015年にSDGsが国連で採択された日と同じ9月25日に3時間の生放送を実施。パーソナリティはニッポン放送朝の人気番組『羽田美智子のいってらっしゃい』の羽田美智子さんが担当し、リスナーやゲストと一緒にSDGsについて考えるとともに、一緒にできるアクションについて紹介。番組では“環境”をテーマに、最近、全世界的に話題になっている気候変動や異常気象等グローバルな視点はもちろん、すぐに取り組める身近なテーマまで幅広い視点でSDGsを取り上げました。またSDGs予習WEEKとして9月20日からの1週間、ニッポン放送の各ワイド番組でSDGsの話題を紹介しました。

[2021年9月25日13:00~16:00]

ファーストSTEP in 国際女性デー



国際女性デーの3月8日に放送された特別番組『ファーストSTEP in 国際女性デー』。「楽しくアクション! SDGs」プロジェクトオフィシャルアンバサダーのファーストサマーウイカさんがパーソナリティを務め、橋本聖子参議院議員、日本とスウェーデンという二国の文化での経験をもつLiLicoさん、北京五輪で銀メダルを獲得したカーリング女子代表「ロコ・ソラーレ」を設立した代表理事本橋麻里さん、芸人山崎ケイさん(相席スタート)等をゲストに迎え、「人々が自分らしく生きられる世の中」について考える5時間30分の生放送を実施しました。

[2022年3月8日【第1部】17:30~21:00【第2部】22:00~24:00]

SDGs MAGAZINE



ニッポン放送では毎月1回、SDGsの現状や課題、そして私たちにできることをわかりやすく紹介する特別番組「SDGs MAGAZINE」を放送しています。2022年3月までは、女優の剛力彩芽さんをパーソナリティに迎え、「気候変動の具体的な対策」「ジェンダー平等を実現しよう」「ごみ問題」「安全な水とトイレを世界中に」「ファッションとSDGs」等、様々なテーマを基にゲストを迎えて放送しました。2022年4月からは新内真衣さんがパーソナリティとなり、引き続き様々なテーマで放送をお届けしています。

●公式サイト <https://sdgsmagazine.jp/>

『はじめよう!フェムテック』



社会的なムーブメントになりつつある「フェムテック」にいち早く注目し、2021年10月~ベネッセコーポレーション・かます東京と共同で、レギュラー番組『はじめよう!フェムテック』をスタート。パーソナリティに、ベネッセコーポレーション K&Fメディア総編集長・伊久美亜紀さんと東島衣里アナウンサーを起用し、社会的に重要なムーブメントになりつつあるフェムテックについてゲストを交えて様々な角度から取り上げています。

[毎週土曜 15:50~16:00放送(2022年3月まで 毎週火曜・水曜・木曜 19:53頃~5分間)]

●公式サイト <https://www.1242.com/femtech/>

その他の取り組み

エリアアライアンス(地域活性化事業)

ポニーキャニオン



エンターテインメントの力で地球を、ニッポンを元気に!

ポニーキャニオンでは、各種パッケージソフト(CD、DVD、Blu-Rayその他)、デジタルコンテンツの企画、制作、販売、さらにイベント企画制作等、常に時代性のあるエンターテインメント事業を多岐にわたって展開しています。それらの経験によって培ったノウハウ、熱量、多方面にわたるネットワーク、精度の高いリソースを活かし、地域との連携によるエリア活性化の一助を担う事業が「エリアアライアンス」です。地域資源の磨き上げ、発信、拡散等「地域から日本を元気にする」事業展開のお手伝いをエンターテインメント界の見地からご提案しています。

●公式サイト <https://local.ponycanyon.co.jp/>

コースマーケティングと社内チャリティ

DINOS CORPORATION



DINOS CORPORATIONでは、長年にわたり継続して実施している社会貢献活動として、通販事業の売り上げの一部を、貧困に苦しむ女性や子どもたちや被災地の子どもたちの心のケア等を支援する、様々な団体(認定NPO法人国連UNHCR協会、公益社団法人ハタチ基金等)に寄付しています。また、今年度はウクライナへの緊急支援活動に賛同し、認定NPO法人国連WFP協会に、社員募金に会社からの拠出を加えマッチングギフトとして寄付を行いました。

SDGsを日々の暮らしの中に!

扶桑社



扶桑社では、SDGsや環境問題に関連した記事を掲載した雑誌を出版しています。「天然生活」では、日常生活でのアイデアの中に環境やエコに関連した記事を掲載。

「エッセオンライン」では、SDGsをテーマにした月1回の連載記事で、社会課題についてわかりやすく解説し、暮らしの中でひとりひとりができることを紹介しています。(フジテレビCSR推進部 木幡美子執筆)

●「天然生活」公式サイト <https://tennenseikatsu.jp>

●「エッセオンライン」公式サイト <https://esse-online.jp/>

FNNプライムオンライン アクションSDGsコーナー

フジテレビ



フジテレビ系FNN28局が配信しているニュースサイトFNNプライムオンライン。『FNN Live News days』や『Live News イット!』、『FNN Live News α』等で取り上げたSDGs企画をオンライン向けに記事化したSDGsコーナーを特集しています。この特集コーナーでは、様々な視点からSDGsに取り組むためのヒントを考えることができます。

●公式サイト https://www.fnn.jp/subcategory/Sustainableanda_Development_Goals

伝える責任 ～人々の命を守るために、メディアができること～

公共性の高いメディア企業にとって、震災等の災害報道は重要な「使命」と認識し、常に「迅速かつ「正確」な報道を心がけています。国民の命を守るための報道、即応体制の構築、災害の記憶を風化させないための継続的な報道等に努めています。

民放NHK6局共同防災プロジェクト 「キオク、ともに未来へ。」

フジテレビ

■ NHK『明日をまもるナビスペシャル「未来の命を救いたい」』を放送



東日本大震災から10年を機にNHKと在京キー局が集まり、防災について考える共同プロジェクト「キオク、ともに未来へ。」を立ち上げました。災害から身を守るために「テレビに何ができるのか？」をテーマに、各局のアナウンサーたちが、定期的に勉強会を開きながら考えてきました。番組では、その成果として、それぞれの防災への取り組みを報告し、それをもとに未来の命を救うための方法を考えました。

[2022年4月3日 10:05～11:05放送]

防災出前授業を開催

広尾学園の中学・高校生の有志に対して、佐々木恭子アナが防災について考える出前授業を行いました。宮城県石巻市とリモートでつなぎ、津波を経験するも九死に一生を得た安田さんの体験をもとに“未来につながる防災”についてディスカッションしました。

[2022年3月14日実施] ※NHK・TBSと合同開催



■ 『わ・す・れ・な・い 行動検証 巨大地震その時…』



これまで主に津波の映像検証を続けてきた「わ・す・れ・な・い」シリーズ。震災から11年、改めて「地震の揺れ」に注目し、首都圏を襲った揺れの瞬間を捉えた映像を多数集め、関係者から証言を得ました。どこで地震に遭うかわからないことと、その時、何が起きるのか…をイメージしてもらう番組を放送し、「すっかり忘れていた揺れの恐怖を思い出した」という感想も多く聞かれました。

[2022年3月11日 14:45～15:45放送]

『サンドウィッチマンのオールナイトニッポン』 日本民間放送連盟賞の準グランプリを受賞

ニッポン放送



東日本大震災直後2011年3月18日に急遽放送された「サンドウィッチマンのオールナイトニッポン」から10年。東北魂を掲げて取り組んで来たサンドウィッチマンが、震災から10年を迎えた3月11日に再びパーソナリティを担当。10年間で感じたことや今の想いをダイレクトに伝え、同番組は、日本民間放送連盟賞の【ラジオエンターテインメント部門】で最優秀を受賞。さらに、「民間放送70周年記念民放大会」で、各部門の受賞作品の中からさらに準グランプリに選ばれました。

災害情報カメラ収録システム“TOREZO”を開発

フジテレビ



「TOREZO」は日本全国に広がる情報カメラ映像の自動送付を実現し、FNN系列各局が個別に運用していた情報カメラの映像を全国で一括管理して収録できます。地震発生時には、自動的に地震による揺れ映像を切り出すことで系列局すべてが地震映像を即座に送出できるシステムです。

2021年日本民間放送連盟賞の【技術部門】で最優秀賞を受賞しました。

東日本大震災 特別企画『ともに』

仙台放送



宮城県の地元放送局として、被災した方や被災地に寄り添いたいという思いから、震災翌月から番組を始め、2022年3月12日の放送(月1回放送)で、132回の放送となりました。その間、継続的な取材先も含めると11年間で約420のグループや活動を紹介してきました。今もなお続く、復興への歩みやそれを支える人々の思いを伝え続けています。

2022年4月から、『ともに』は月1回の放送ではなく、仙台放送『Live news イット!』内で毎週金曜日に特集枠として放送を続けています。

『明日への羅針盤～はるな愛が見つめる復興の道～』

仙台放送



岩手、宮城、福島の前FNN系列3局で2022年に6回目となる合同特別番組を放送しました。初の収録形式で、自身も被災地支援を続けている、はるな愛さんを起用し、3局のアナウンサーがはるな愛さんと復興に向け頑張る人達に会いに行きました。

- ・岩手県…三陸の水産の魅力を発信するイカ王子に会いに宮古市へ、陸前高田市では「発酵」をテーマに建設された複合施設を訪問。
- ・宮城県…名物女将がいる気仙沼市の民宿と、津波で甚大な被害を受けながらも復活を遂げた山元町のイチゴ農家を訪問。
- ・福島県…原発事故の影響を受け続けている南相馬市と双葉町を訪問。

[2022年3月12日 12:55～13:50放送]

東北・みやぎ復興マラソン2021

仙台放送



東北・みやぎ **オンライン** 復興マラソン
TOHOKU-MIYAGI ONLINE REVIVE MARATHON

2017年から始めた東北・みやぎ復興マラソンは、2019年は台風、2020年、2021年は新型コロナウイルス感染症の影響で、3年連続のリアル大会中止が続いています。しかし、多くのランナーの被災地を応援したいという気持ちに答えるため、2020年、2021年は、オンラインマラソンを開催。2020年は延べ7,881人、2021年は、フルマラソンに加え、ファミリー部門を新設したり、参加賞品のさらなる充実をはかったりするなどして、のべ6,191人のランナーが参加しました。2022年もオンラインでの開催となります。

BCP対策・防災への取り組み

フジテレビ/仙台放送



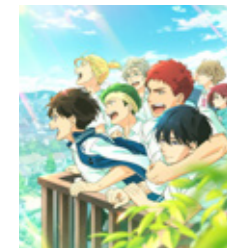
FNN系列各局と協力して毎年大規模な災害放送訓練を実施しています。2021年度は「千島・日本海溝沖地震」(北海道釧路沖が震源となる震度6強地震が発生し、津波が到達)を想定した訓練を行いました。特にビデオポスト映像の迅速な素材化、スカイプ中継、そして系列各局のヘリと中継車によるヘリダウンリンク中継について検証し、FNN各局の報道機能が低下した際の連携や、スマホを使った取材について確認しました。日頃から速やかな放送を心がけて定期的に訓練しており、今後も継続していきます。

「ずっとおうえん。プロジェクト 2011+10…」

フジテレビ/BSフジ

「ずっとおうえん。プロジェクト 2011+10…」は、東日本大震災発生から10年となる2021年に、フジテレビがアニプレックス、BSフジ、イオンエンターテイメントと共同で立ち上げたアニメ制作を通じた被災地復興支援プロジェクトです。アニメ作品をきっかけに多くの方が被災地を訪れ、自然や文化、食の魅力に触れて頂き、長期的な支援につながることを目的としています。岩手県・宮城県・福島県の被災3県を舞台にした3本のテレビアニメ・長編アニメ映画を2021年度に放送・公開しました。なお、このプロジェクトは、フジテレビが2011年の発災直後から実施している「ずっとおうえん。プロジェクト」の関連企画です。

●公式サイト <https://zutto-ouen.com/>



©映画バクテン製作委員会

■『バクテン!!』
2021年4月～6月 フジテレビ“ノイタミナ”枠他にて放送
2022年映画化『映画バクテン!!』2022年7月2日公開

宮城県岩沼市が舞台の高校男子新体操部の門を叩いた主人公の双葉翔太郎が、個性的な仲間とともに、挫折を味わいつつもひとつの目標に向かってひた走る青春ストーリー。



©柏葉幸子・講談社/
2021『岬のマヨイガ』製作委員会

■『岬のマヨイガ』
2021年8月27日公開

岩手県の沿岸地方にある「狐崎」を舞台に、被災した身寄りのない少女と主婦、そして、その2人に救いの手を差し伸べる老婆の3人が、古民家で共同生活を営みながら、遠野物語を彷彿とさせる伝承や妖怪に出会うファンタジー作品。

■毎日映画コンクール アニメーション映画賞受賞



©BNP、FUJITV/
おしゃれサロンなつなぎ

■『フラ・フラダンス』
2021年12月3日公開

福島県いわき市にあるスパリゾートハワイアンズのダンシングチーム通称フラガール。フラガールを仕事に選んだ新入社員・夏風日羽と同期の仲間たち、そして彼女たちを取り巻く人々との絆を描くオリジナル長編アニメーション映画。

■第31回 日本映画批評家大賞 アニメーション作品賞受賞

「ずっとおうえんプロジェクト」豪雨の被害を受けた佐賀県武雄市で実施

フジテレビ

フジテレビでは、2011年からニーズに合わせた被災地復興支援活動を継続して行っています。これまでに211ヶ所、25,860人を対象に実施しました。

●公式サイト <https://www.fujitv.co.jp/sustainability/activity/zutto.html>

県立武雄高校でミニ「あなせん」と動画制作指導



災害に関するVTRを制作中ということで、動画制作に関してアドバイスをしたり、発声・滑舌や伝える話し方のコツ等を伝授しました。

[2021年12月4日実施]

武雄市立朝日小学校で「あなせん特別編」



フジテレビ 安宅見樹アナ
サガテレビ 橋爪和泉アナ

コミュニケーションの出前授業「あなせん」に加えて、メディアの情報との向き合い方についての「メディアリテラシー」の授業も初めて行いました。

[2022年3月22日実施]

ふくしま浜街道・桜プロジェクトに参加

全社



地震や津波、さらに放射能の影響を受けた福島県で「30年後に子どもたちが誇れる桜並木を作りたい」という思いからスタートした「ふくしま浜街道・桜プロジェクト」。フジ・メディア・ホールディングスはその趣旨に賛同し、2013年度から苗木を購入し、現地での植樹活動を継続しています。2021年度は5社から23人が参加し、感染対策をしながら福島県南相馬市の国道6号線の土手の斜面に、2メートル以上もある苗木45本を植えました。これまで9回で植樹した桜は計1,405本になりました。2021年の議決権行使の際にスマート行使をご利用頂いた分、余剰が生じた郵送費の一部を苗木の寄付に充てています。[2022年1月22日]

「みやぎグリーンコーストプロジェクト」の発信をサポート

クオラス



東日本大震災で失われた宮城の沿岸。宮城県水産林政部森林整備課が10年かけて約1,300haの海岸防災林を整備してきました。これから30年、50年先の未来へ、若いクロマツを立派な海岸防災林に育む活動が始まっています。このプロジェクトを多くの方に知ってもらうために、ポータルサイトの作成、YouTube動画作成・配信、バスツアー、研修会をしました。

●公式サイト <https://miyagi-coast.jp/>

阪神・淡路大震災から27年

ニッポン放送

ニッポン放送では平時から「運転中に地震が発生した場合」や、「非常の際の備え」など「地震に備える一口メモ」を番組内で放送していますが、阪神・淡路大震災から27年となる1月17日は、各番組で「防災」に関する情報を伝えた他、「地震に備える一口メモ」の本数を増やして放送しました。あの日の経験、記憶を忘れないために今後も継続して「防災」情報をお届けします。

トンガ義援金

ニッポン放送



ニッポン放送では、2022年1月に南太平洋のトンガ沖で起きた海底火山の大規模噴火による被害を受けた方々を少しでも支援するため、番組、ホームページ等でリスナーから、義援金を2月1日から3月11日まで受け付けました。義援金総額は、159万4,262円となり「ニッポン放送 聴取者一同」の名前で、4月に檜原社長よりトンガ王国大使館に贈呈しました。

「あなせん」プロジェクト

フジテレビ/扶桑社



山崎夕貴アナ

アナウンサーによる出前授業「あなせん」(アナウンサー先生)は、2005年にアナウンサーが主体となってスタートした小学生を対象にした出前授業です。デジタル世代の子どもたちにface to faceで伝え合うことの楽しさを知ってもらうとともに、コミュニケーション能力の向上につながればと考え継続しています。2021年度15校779人を対象に実施し、2005年から約17年間で266ヶ所、約2万900人の子どもたちを対象に出前授業を行っています。コロナ禍で課外活動が減る中、対面での開催を希望する声が多く、感染対策を講じた上でそれに応える形で開催しました。

プロジェクト概要

- 対象:小学3年生~6年生
- 講座内容:[スピーチ][インタビュー][音読]
- 実施エリア:関東1都6県
- 公式サイト <https://www.fujitv.co.jp/csr/anasen/>



山本寛太アナ、小澤陽子アナ

子どもたちから届いたお礼の手紙

東京都 江戸川区立江戸川小学校 荒川区立第九峡田小学校 (東京文化会館コラボ) 世田谷区立松丘小学校 葛飾区立鎌倉小学校 清瀬市立芝山小学校 日の出町立大久野小学校 足立区立関原小学校 江戸川区立上小岩第二小学校	東京都 足立区立足立入谷小学校 (東京文化会館コラボ) 練馬区立大泉第四小学校 江東区立東川小学校 埼玉県 深谷市立豊里小学校 羽生市立川俣小学校 佐賀県 佐賀県立武雄高等学校 武雄市立朝日小学校
---	--

「かけはし」プロジェクト

フジテレビ



取材で気を付けていることは?



【取材の件】
今年全国を回り、様々な現場で
取材する中で気をつけていることは?

小学校の先生方からメディアリテラシーやキャリア教育の場を設けてほしいとの要望を受け、「かけはしプロジェクト」がスタートしました。このプロジェクトは小学5年生を対象とし、子どもたちからテレビのことについての疑問や質問を動画で送ってもらい、フジテレビ社員の各セクションのスペシャリストが動画でお答えする、コロナ禍の新しい取り組みです。子どもたちが普段見ているテレビの世界を、より身近に感じてもらいたいという思いで取り組んでいます。

- [2021年3月実施]
- 公式サイト <https://www.fujitv.co.jp/sustainability/kakehashi/>

コエール

フジテレビ



主催:認定NPO法人ブリッジフォースマイル

親を頼れない児童養護施設の子どもたちが、自らの経験を語るイベント「コエール」の趣旨に賛同し、スピーチを行う9人に対して、奥寺・西岡・佐々木・梅津の4人のアナウンサーがオンラインでスピーチ指導をしました。

[2021年5月23日・6月5日実施]

ブックフォースマイル

フジテレビ



フジ・メディア・ホールディングスでは、不用となった書籍を(株)パリュブックスへ寄贈することで、児童養護施設

を巣立つ子どもたちを応援しています。寄付総額は、2014年度から合計24,556冊119万5,953円(2022年3月末現在)と なっています。

「デジタル紙芝居」

フジテレビ/フジクリエイティブコーポレーション



コロナ禍でおうち時間を楽しんでもらいたいという思いで、2020年にスタートした、おうち応援プロジェクト「デジタル紙芝居」。フジテレビの美術担当者によるオリジナルの作画とアナウンサーの朗読による作品は、これまでの6作品に加え、新たに2作品が加わりました。作品をフジクリエイティブコーポレーションが制作し、フジテレビのYouTubeチャンネルやHPで公開しており、学校や団体等でも活用して頂けるようDVD化し寄贈しています。

作品一覧

- 「注文の多い料理店」「プレーメンの町楽隊」「ごん狐」「蜘蛛の糸」「賢者の贈り物」「手袋を買いに」「シンデレラ」「はだかの王様」

●公式サイト <https://www.fujitv.co.jp/csr/kamishibai/t>

■ 系列コラボ制作



より多くの方に楽しんで頂けるよう、フジテレビアナウンサーとFNS系列局アナウンサーとでコラボレーションし、5作品を制作しました。

●公式サイト <https://www.fujitv.co.jp/csr/kamishibai/fnscollaboretion.html>

■ デジタル紙芝居を活用した朗読講座



武蔵野プレス

東京都武蔵野市の小学4~6年生を対象にデジタル紙芝居「ごんぎつね」を活用した朗読講座を実施しました。

[2021年12月14日実施]

ハロー!どっこくん

フジテレビ/エフシーエ総合研究所



愛知県名古屋市の保育園・幼稚園で実施

季節の食材をバランスよく食べることや排泄、運動の大切さを教える食育出前授業を行っています。アナウンサーによるうんちのキャラクター「どっこくん」の大型紙芝居の読み聞かせや「どっこくん体操」などで構成されたプログラムで全国各地の幼稚園、保育園やイベント等で実施しています。2010年にスタートし、これまでに191ヶ所、約2万3,000人を対象に行いました。また、コロナ禍の運動不足解消のために「どっこくん体操」をYouTubeにも公開しています。

[2021年11月11日実施]

●公式サイト <https://www.fujitv.co.jp/csr/dokko/index.html>

●どっこくん体操 <https://www.youtube.co/watch?v=zv5BQKpwy7M>

そらぷちキッズキャンプ

フジテレビ/エフシーエ総合研究所



東京マラソンの寄付で作られたツリーハウス

北海道滝川市にある医療施設を完備した難病の子どもたちのためのキャンプ施設「そらぷちキッズキャンプ」。その活動趣旨に賛同し、2009年からキャンプでの朗読会や食育イベントを開催しています。また当団体は「東京マラソン」チャリティランの寄付先になっており、放送を通じて紹介するなどのサポートをしてきました。キャンプ場に来ることができない闘病中の子どもたちにVR(バーチャルリアリティ)でキャンプ体験をしてもらうために、夏・冬バージョンの映像を制作、「そらぷちキッズキャンプ」を通じて、病院の子どもたちに届けています。

●「そらぷちキッズキャンプ」HP制作:エフシーエ総合研究所

「第47回ラジオ・チャリティ・ミュージックソン」

ニッポン放送



「ラジオ・チャリティ・ミュージックソン」は、ニッポン放送が1975年から毎年12月24日正午から翌25日正午まで『目の不自由な方が安心して街を歩けるように「音の出る信号機」を設置する』という目的で、24時間生放送でお届けしているチャリティ番組です。第47回のパーソナリティは、2020年に引き続き、SixTONESが努め、24時間リスナーに募金を呼びかけました。またメンバーは、2021年のキャッチコピー「ココロのバトン MY HEART YOUR HEART」にちなみ、メンバーによる視覚障害にまつわる体験取材をレポートする「ハートフルレポート」と朗読「ハートフルストーリー」をお届けしました。最終募金総額は、8,322万212円。これにより、「ラジオ・チャリティ・ミュージックソン」の累計募金総額は、48億4,586万196円となりました。

お預かりした浄財は、全日本交通安全協会や日本点字図書館等を通じ『音の出る信号機』の設置や、本を音声朗読した『声の図書』、『立体コピー機』等多数の視覚障害者用機器等に使われます。また、今回はお預かりした浄財の一部が、日本看護協会を通じ、医療従事者の皆様の活動の支援にあてられています。

「HANDSIGN」手話ダンスを広げる活動を継続

フジパシフィックミュージック



歌、ダンス、手話という新しい表現方法で伝えるボーカル&手話パフォーマー「HANDSIGN」は、手話ダンスを通じて若い世代に手話を広める普及活動を、地元神奈川を中心に全国各地で行っています。手話を交えた独自の表現方法でメッセージを届け、音楽とパフォーマンスで全ての人達が楽しめるライブ空間を追求し続け、聴者とろう者の架け橋になりボーダレスな社会の実現をめざして活動しています。

「HANDSIGN」代表曲『僕が君の耳になる』映画化



YouTubeで1,000万回再生を突破し、話題となったHANDSIGNの実話を基にした楽曲『僕が君の耳になる』が映画化されました。大学に通う純平と美咲。パッと見は、ごく普通の若い2人だったが、美咲は耳が聞こえないろう者でした。純平が路上で歌うところから2人は出会い、障害者の世界を知り互いに惹かれあっていく実話を基に描かれる感動ラブストーリーです。この作品はバリアフリー日本語字幕付きで全国公開されました。

[2021年5月7日全国公開]

ランドセル贈呈セレモニーのアンバサダー任命



映画「僕が君の耳になる」の公開舞台挨拶に、聴覚障害を持つ子どもと保護者を招待し、「ランドセル贈呈セレモニー」を実施しました。

セレモニーのアンバサダーは、この映画の主題歌を歌う「HANDSIGN」が務め、全日本ろうあ連盟協力のもと子どもたちへポロラルフローレン製のランドセル500個を寄贈しました。

[2021年6月26日実施]

FNSチャリティキャンペーン

フジテレビ/各社



「世界の子どもたちの笑顔のために」をテーマに1974年から48年間にわたり実施しているチャリティ活動です。フジテレビ系列各社およびBSフジが、放送やイベント等で募金活動を行い、ユニセフを通じて国際貢献を続けてきました。これまでの募金総額は44億円に達しており、アジア・アフリカ等世界の開発途上国の子どもたちのために役立てられています。

2021年度は2年連続でモザンビーク共和国を支援しました。アフリカ南東部にある世界最貧国のひとつで、人口の約半数が1日1.9ドル未満を下回る生活をしており、5歳未満の子どもの43%は重度・軽度の栄養不良に陥っています。

2021年度の最終寄付総額は2,199万8,539円で、経費を控除した1,997万7,894円が、公益財団法人日本ユニセフ協会を通じて、現地の子どもたちの支援に活用されます。

●公式サイト <https://www.fujitv.co.jp/charity/>

社屋イルミネーションAURORA∞(オーロラ)

フジテレビ/フジメディア・テクノロジー



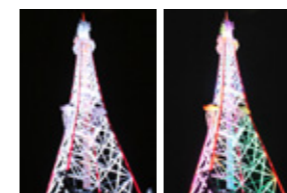
フジテレビの社屋イルミネーションAURORA∞(オーロラ)を活用し、色で社会課題への支援を発信する「アウェアネスカラー」のライトアップを2015年から継続しています。

年間を通して、お台場エリアの夜のにぎわいの一環として、訪れる方々を温かくお迎えます。

4月2日	世界自閉症啓発デー	●	10月30日-11月7日	児童虐待防止	●
4月23-25日	LGBT等 인권啓発	●	11月11-13日	DV・暴力根絶	●
7月30日-8月1日	水の日	●	11月14-16日	世界糖尿病デー	●
9月18-21日	国際平和デー	○	11月29日-12月1日	世界エイズデー	●
10月1-3日	乳がんの予防啓発	●	1月20-23日	害者権利条約発効日	●
10月15-17日	臓器移植への理解促進	●	3月7-9日	国際女性デー	●

仙台スカイキャンドル

仙台放送/フジメディア・テクノロジー



仙台放送の送信所の鉄塔は、東日本大震災の鎮魂と復興の願いを込め、2012年春に塗装を一新しました。その後、愛称を仙台スカイキャンドルとし、様々な色で仙台の夜の街に彩を添えるだけでなく、社会課題への支援をライトアップを通して続けています。

ユニバーサルマナー検定を実施

各社



講師:日本ユニバーサルマナー協会代表理事で、株式会社ミライロの垣内 俊哉社長

障害者や高齢者へのさりげない配慮を学ぶことができる「ユニバーサルマナー検定」3級の講習会を実施しました。2016年以来となるこの講習会に、フジ・メディア・ホールディングス傘下の10社から44人が受講しました。車いすを使用の方、視覚障害、聴覚障害の方や高齢者等に対し、特徴や心理状況を知ることから適切な声かけやコミュニケーション等日常生活における適切なサポート方法について、とてもわかりやすく説明して頂きました。テレビ業界で初めて「ユニバーサルマナー検定」を導入した企業として持続可能で多様性と包括性のある社会をめざし、これからも取り組んでいきます。 [2022年3月9日実施]

パラリンピック特番

フジテレビ/BSフジ/ニッポン放送

■ フジテレビ



パラスポーツ、パラアスリートの魅力を、支える人・歴史・日常生活等と共に知って頂くことで、多くの方が“生きる力”に変え、また、障害の有無に関わらず、みんなが一緒に生きていける社会であって欲しいとの思いで3つの特別番組を制作・放送しました。

- 『東京パラリンピック開幕直前SP～超越アスリートを支える「言葉」～』[2021年8月22日 14:00～14:55放送]
- 『車いすバスケットボール』中継 [2021年9月4日 16:00～17:55放送]
- 『ブラインドサッカーハイライト』 [2021年9月5日 12:00～13:00放送]

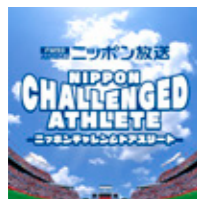
■ BSフジ『アキレアの橋～2020遙かなる東京へ～』



オリンピック・パラリンピックをめざすアスリートの中には脚光を浴び、晴れの舞台に立てる人もいれば、悔し涙を流す人もいます。報われた努力と同様に、報われなかった努力も映像化し、ありのままの姿を伝えました。

- ・#32『東京2020へ 彼らが絶対あきらめない理由』[2021年5月16日 19:00～20:55放送]
- ・#33『遙かなる東京へ 結実と、未来と。』[2021年12月27日 19:00～20:55放送]

■ ニッポン放送『ニッポンチャレンジドアスリート』



ニッポン放送が2014年からお届けしているスポーツ番組。この番組では、障害を持ちながら、アスリートとして国際舞台をめざしている人やそんなアスリートを支える人達の戦い続ける素顔や軌跡を紹介しています。番組の放送内容をすべてホームページで公開しています。

- [毎週月～金 15:20～15:25放送]
- 公式サイト <https://www.1242.com/challenged/>

パラスポーツ応援チーム「TEAM BEYOND」企業メンバー

フジパシフィックミュージック



パラスポーツを通じて、みんなが個性を発揮できる未来を目指す東京都公認パラスポーツのファンサイト「TEAM BEYOND」の企業メンバーとして参加しています。「TEAM BEYOND」の精神は、障害のある人もない人も、女性も、男性も、子どもも、高齢者も、誰もがいきいき生活できる、活躍できる、多様性を持った都市である「ダイバーシティ」につながるものです。「HANDSIGN」も背番号33番メンバーとして活躍しています。

コンテンツにおけるバリアフリー

フジテレビ/共同テレビ/フジクリエイティブコーポレーション/フジミック

あらゆる人にコンテンツを楽しんでもらいたい、そんな思いから、字幕放送、解説放送、字幕データ放送を制作しています。またフジテレビが2021年度に公開した全ての映画に字幕と音声ガイドを付与しました。

■ 放送におけるバリアフリー

・字幕放送

聴覚障害者や高齢者等、テレビの音が聞こえにくくなった方々にも番組を楽しんで頂くために、テレビの音声を文字にして画面に表示する字幕放送を行っています。ニュース等では、生字幕=リアルタイムで字幕を付ける付与を進め、さらに生放送のバラエティやスポーツ中継等でも積極的に字幕を付けています。CM字幕放送も増やすべく対応を進めています。



・解説放送

目の不自由な方々にテレビを楽しんで頂くために副音声を使って画面の解説を行う解説放送を行っています。場面設定や出演者の動き等をナレーターが簡潔に説明します。

・字幕データ放送

どの地域でも字幕放送を視聴できるように、番組素材に字幕放送データを付与して各系列局に供給。番組素材をデータファイル化して字幕を同梱し、各局の放送時間にオンラインで配信しています。

(2020年度実績)	
字幕放送	●付与可能時間に対する付与率 100%
解説放送	●付与可能時間に対する付与率 13.7%
	●総放送時間に対する付与率 64.2%
	●総放送時間に対する付与率 4.8%

映画におけるバリアフリー

フジテレビ

2021年度に公開した全ての映画に日本語字幕を付けました。(後日発売されるDVD・Blu-rayにも字幕を付与)また、視覚障害者のお客様にも映画をお楽しみ頂けるよう、全ての映画に「音声ガイド」(映画の視覚的な情報を補うナレーション)を付け、バリアフリー上映も行いました。

視覚障害者のためにアナウンサーが書籍を音訳

フジテレビ



日本点字図書館にてアナウンサーが蔵書朗読録音ボランティアを2009年より継続しています。視覚障害者のために書籍を音訳し録音、ネットで配信されています。これまでに8名のアナウンサーが担当し、61タイトルを読んでいます。

- <2021年度に読んだ作品>
- ・『詰むや、詰まざるや～森・西武vs野村・ヤクルトの2年間』
- ・『日本語とにらめっこ 見えないまぐの学習奮闘記』
- ・『イラッとさせない話し方』
- ・『嫌われた監督 落合博満は中日をどう変えたか』

海外での日本語放送を継続

フジテレビ



北米や欧州の在留邦人や日系人に日本の国内情報を提供することを目的として、日本語放送を1982年から継続して行っています。現在はフジテレビの『めざましテレビ』『めざまし8』『FNN Live News days』『Live News イット!』を1時間に凝縮して編集し、アメリカ主要都市で毎週平日放送しています。

持続可能な社会を実現し、当グループが永続的に事業を展開していくために、様々な事業活動によってもたらされる環境への影響を認識し、負荷の低減に努めます。

お台場環境行動宣言

フジテレビ

フジテレビは、気候変動が地球規模の課題となる中、放送の公共的使命と社会的責任を強く認識し、番組やイベント等を通じて、地球環境の保全と、脱炭素社会の実現に努めてまいります。

伝える、まもる



テレビの強みである創造力と発信力を活かし、番組やイベント等を通じて、気候変動の現状を伝え、地球環境の保全を呼びかけます。



臨海副都心の自然環境や海洋資源、生態系の保全に向け、地域コミュニティ、行政等との連携・協力を強化し、住み続けられる街づくりや環境との共生を目指します。



循環型社会の実現に向け、クリーン・エネルギーの活用や省エネ・省資源を推進し、企業活動から生じる環境負荷の低減に努めます。



地球環境の保全に向けて、社員の意識向上に努めるとともに、環境関連の法律や規制を遵守し、社会的責任を果たします。

2022年3月改定

フジテレビは、これらを通して、持続可能な社会の実現を目指します

DINOS CORPORATION

DINOS CORPORATION

たのしく豊かに暮らしのために、すべての事業活動において、自然環境保全につながる取組みを推進します。

＜「自然環境」を持続可能にするための私たちの3つの取組みテーマ＞

- ・より自然環境にやさしい暮らしへ
- ・責任ある紙の使用
- ・気候変動の緩和に向けて

<https://dinos-corp.co.jp/sustainability/susvision/environment/index.html>

サンケイビル

サンケイビル

・環境理念 | 株式会社サンケイビルは、チャレンジングなデベロッパーとして、開発から運営そして解体までの様々な場面での環境負荷低減を意識し、自然との調和を図り、地球環境の保全に努めます。

・環境方針 | 私どもは、環境への配慮を重要課題と捉え、『環境との共生』を目指し行動します。

<https://www.sankeibldg.co.jp/company/vision.html>

ニッポン放送木更津発電所

ニッポン放送



ニッポン放送では、2013年に木更津送信所に大規模な太陽光発電システム(メガソーラー)を設置、「ニッポン放送木更津太陽光発電所」として同年10月1日より営業運転を開始しました。この発電所の年間発電量はおよそ2,258MWhで、推定で年間1,262tのCO₂削減につなげています。太陽光発電で得られた電力は「電気事業者による再生可能エネルギー電気の調達に関する特別措置法」により、電気事業者に売電しています。

物流施設の屋上太陽光発電

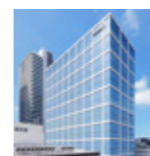
サンケイビル



サンケイビルは、首都圏および関西圏での物流施設の開発に着手し2021年4月に新ブランド「サンケイロジ」を立ち上げました。今後も、施設屋上に太陽光発電設備を設置する取り組みを推進し、入居するテナントの再生エネルギー利用を可能とし、サステナブルな社会の実現に貢献して参ります。

新時代のオフィスビル「本町サンケイビル」

サンケイビル



本町サンケイビル(大阪府大阪市)は国土交通省より省CO₂の実現性に優れたリーディングプロジェクトとして「サステナブル建築物等先導事業(省CO₂先導型)」に採択されている他、一般財団法人建築環境・省エネルギー機構(IEBC)による「CASBEE-SWO(スマートウェルネスオフィス)認証制度」において、最高評価であるSランクを取得しています。

本社における取り組み

フジ・メディア・ホールディングス/フジテレビ

お台場の本社屋では、エントランス、スタジオ、会議室、社員食堂等の照明のLED化や空調機のインバーター化、IE3モーターの導入、放送設備の省エネ化等により、CO₂排出量の削減に積極的に取り組んでいます。2021年度は、東京都の地球温暖化対策計画制度に基づく基準排出量30,640tに対して、41%の削減を実現しており、都の定める削減義務率を大きく上回っています。社内のペーパーレス化や取材テープの再利用の推進等により、総廃棄物量の削減、社屋食堂で出た水をトイレ洗浄水(中水)として再生利用することで、水資源の削減に努めています。

フジテレビと美術制作会社であるフジアールは、産廃リサイクルに積極的に取り組んでいる業者と契約をし、廃材処理を一元化することでリサイクル率の向上を実現しています。

	2016年度	2017年度	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度
特定温室効果ガスCO ₂ 排出量(t)	22,680	21,780	21,768	21,201	19,752	17,973
基準排出量比 ^{*1}	-25%	-28%	-28%	-31%	-35%	-41%
総廃棄物量(t)	1,618	1,468	1,266	1,246	934	841
廃棄物リサイクル量(t) ^{*2}	1,588	1,438	1,261	1,246	929	840
リサイクル率(%)	98.1	97.9	99.6	99.4	99.5	99.9
水使用量(m ³)	177,856	178,700	136,676	134,292	102,695	102,970
再生水製造量(m ³) ^{*3}	17,128	16,231	13,146	15,731	8,356	7,075

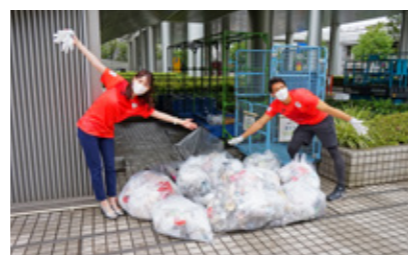
*1:東京都地球温暖化対策計画制度に基づく基準排出量比

*2:フジテレビから発生するビデオテープについては、ゴミ分別、産業廃棄物排出量には計上されていません。

*3:水使用量には再生水使用量も含まれます

清掃活動

全社



フジ・メディア・ホールディングスでは、有志による合同清掃活動を2012年より継続しています(年3回実施)。2021年度は東京2020大会開催の2週間前となる7月9日に実施した他、3月と10月にも実施。7月の合同清掃活動では、「東京2020参画プログラム」として正式に認証されたものです。お台場を訪れる人たちが、快適に過ごして頂けるよう、地域の美化に貢献しています。

[2021年7月9日・10月8日 / 2022年3月10日実施]

ふくのわプロジェクト

フジテレビ/各社



不用になった衣服を回収、売却し、収益金をパラスポーツ(障害者スポーツ)の支援に充てようという「ふくのわプロジェクト」に参加しています。(主催:産経新聞社)社員食堂の横に回収ボックスを設置したところ予想を上回る量の衣服を回収することができ、2020年7月~2022年3月末までで約1.6tを寄付しました。

まちづくり協議会「花と緑のフラワーフェスタ」

フジテレビ



2021年11月、フジテレビ本社ビル裏手のシンボルプロムナード公園で「花と緑のフラワーフェスタ・チューリップ球根植え」を行いました。これは東京都臨海副都心まちづくり協議会が、環境プロジェクトの一環として毎年行っている活動で、フジテレビからは15人が参加、春には見事な花を咲かせました。

[2021年11月25日実施]

まちづくり協議会「清掃キャンペーン」

フジテレビ



2022年3月には東京臨海副都心まちづくり協議会の清掃活動があり、フジテレビからは9人が参加しました。

新型コロナウイルスの影響もあり、3年ぶりの開催でしたが、感染対策をしながらおよそ40分間にわたって清掃活動を行い、シンボルプロムナード周辺を綺麗にしました。

[2022年3月16日実施]

地球環境大賞

地球環境大賞
Since 1992

地球環境大賞は、「産業の発展と地球環境との共生」をめざして、フジサンケイグループが1992年に創設した顕彰制度です。地球温暖化の防止、循環型社会に向けた新技術・新製品の開発、地球環境に対する保全意識の一段の向上等を目的としており、SDGsの理念とも一致した取り組みです。WWF(世界自然保護基金)ジャパンの特別協力のもと、企業のみならず、行政、学校、市民グループ等も顕彰の対象としており、29回までで計289の企業・団体が受賞しています。

第30回は、2021年に実施される予定でしたが、新型コロナウイルス感染拡大の影響で、1年延期となりました。

第32回高松宮殿下記念世界文化賞



©産経新聞/日本美術協会

「世界の文化芸術の普及・向上に広く寄与したい」という、故高松宮殿下のご遺志に基づいて、公益財団法人日本美術協会によって1988年創設されました。フジ・メディア・ホールディングス各社は趣旨に賛同し、支援しています。これまでに絵画、彫刻、建築、音楽、演劇・映像の5部門で、31ヶ国164人の方々が受賞されています。2021年度は新型コロナウイルス感染拡大の影響で、授賞式は見送られ、個別に顕彰メダル伝達式が行われました。

- 第32回受賞者
- ・絵画部門……セバスチャン・サルガド
 - ・彫刻部門……ジェームズ・タレル
 - ・建築部門……グレン・マーカット
 - ・音楽部門……ヨーヨー・マ

第37回正論大賞



フジサンケイグループは、1985年から「自由と民主主義のために闘う正論路線」の基本理念を発展させた学者、文化人に正論大賞を贈って表彰しており、第37回の大賞は、東京大学名誉教授の平川祐弘氏が受賞しました。また特別賞には、北朝鮮による拉致被害者、横田めぐみさんの両親、横田滋さん(故人)、早紀江さんが選ばれました。贈呈式は2022年2月28日に、都内のホテルで行われました。

第50回フジサンケイグループ広告大賞



総合性、創造性、大衆性に優れた広告を表彰するフジサンケイグループ広告大賞は、1971年に創設され、50回目を迎えました。2020年にフジサンケイグループ各媒体を使用した広告を審査対象とした第50回では、トヨタ自動車株式会社の企業広告「トヨタタイムズ」が最高賞となる「メディアミックス部門グランプリ」を2年続けて受賞、また、パナソニック株式会社が「第50回記念特別賞」を受賞。贈賞式は2021年4月13日に都内のホテルで行われました。

当社は、放送法に基づく認定放送持株会社です。メディア産業を取り巻く環境変化にいち早く対応し当社及び当社の子会社(以下、当社グループ)の企業価値を向上させるには、子会社である株式会社フジテレビジョン(以下、フジテレビ)を核として放送以外の周辺事業領域に対しても経営資源の最適な配分を行う必要があります。認定放送持株会社は、こうした対応に最も適した組織形態であると考えています。当社グループは、わが国を代表するメディア・コングロマリットを目指しており、その実現のためには適切なグループガバナンスが不可欠であると認識しています。

フジ・メディア・ホールディングスのコーポレート・ガバナンスにつきましては、以下のホームページのマネジメント体制をご覧ください。
 ●コーポレート・ガバナンス <https://www.fujimediagd.co.jp/corporate/governance.html>

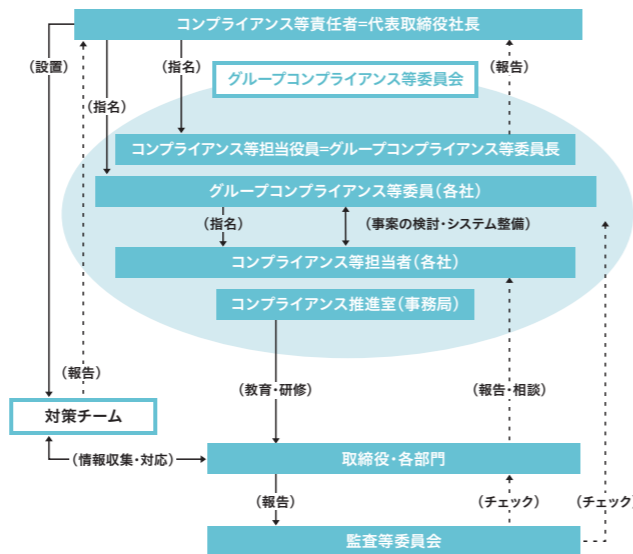
内部統制

業務の適正を確保するための体制および当該体制の運用状況

1) 業務の適正を確保するための体制

当社は取締役会において、内部統制システムの基本方針となる「業務の適正を確保するための体制の整備に関する決議」を決議しております。決議内容の概要は以下のとおりです。
<https://www.fujimediagd.co.jp/corporate/governance1.html>

当社の内部統制の仕組みは右図のとおりです。



2) 業務の適正を確保するための体制の運用状況の概要

当期における運用状況の概要については以下のとおりとなります。

1. 取締役の職務執行

当期は取締役会を7回開催し、経営方針等の重要事項について審議・決定するとともに、取締役の職務執行について報告を受けました。取締役会にはすべて、当社の監査等委員である取締役を含む社外取締役が出席しています。業務の執行に関しては、代表取締役社長を中心に、業務執行取締役が効率的かつ迅速な意思決定を行っています。

2. グループコンプライアンスに関する取り組み

当社グループ各社の代表取締役社長を構成メンバーとする「グループコンプライアンス等委員会」を1回開催し、グループ全体のコンプライアンスおよびリスク管理に対する意識の向上を図りました。また、当社グループ各社のコンプライアンス等担当役員および実務担当者のそれぞれを対象とした会議を2回開催し、当社グループにおけるコンプライアンスおよびリスク管理に関する情報共有を行いました。また、年度に一度コンプライアンス活動に積極的に取り組んだ会社を報奨し、グループ全体におけるコンプライアンス意識の醸成に努めています。

3. 内部監査の実施

「内部監査規程」に基づき、内部監査部門が「内部監査計画書」を作成し、当社グループを対象とした監査を行いました。監査結果については、当社代表取締役社長に対して報告を行うとともに、その概要を監査対象各社へフィードバックしました。

4. 監査等委員会の職務執行

当期は監査等委員会を7回開催し、監査方針および監査計画を協議、決定しました。監査等委員会は、監査等委員会において定めた監査計画に基づき監査を行うとともに、当社の取締役(監査等委員である取締役を除く。)および子会社の代表取締役社長を対象とした面談を実施し、その職務執行に関する報告を受け、当社の子会社の常勤監査役との間で、意見や情報の交換を定期的に行いました。また、当社の監査等委員会は当社の会計監査人および内部監査部門との間で、それぞれ意見や情報の交換を定期的に行いました。さらに、監査等委員会による職務執行が円滑に遂行されるよう、監査等委員会が「監査等委員会規則」に基づいて選任した監査等委員会スタッフが、監査等委員会の招集事務、議事録の作成、その他監査等委員会の運営に関する事務および監査等委員会の職務を補助しています。

コンプライアンス

■ コンプライアンス方針

当社グループは、「放送事業」を中核に、多様な業種・業態からなる「認定放送持株会社」です。放送事業では国民の共有財産である電波を使用し、様々な番組を制作して送り出しています。それだけにグループ全体が常に社会全体に思いを馳せ、「高い法令遵守の意識」「使命感」「倫理観」を持ち続けなければならないと認識しています。また、当社グループは、社会からの信頼を獲得するために「コンプライアンス体制」の確立が何より重要と考えています。一般的に「コンプライアンス=法令遵守」と理解されますが、それにとどまらず、例えば、放送業界における民放連の「放送基準」「報道指針」のような、それぞれの業種・業態ごとのガイドラインやルール、さらに各社の「内規」や「企業倫理」についても重視しています。

■ コンプライアンス体制

当社グループでは、「グループのコンプライアンス及びリスク管理等に関する規程」に則り、グループ各社は「コンプライアンス方針」「必要な体制」を整備し、社内での様々な取り組みを行っています。それに加え、当社グループでは合同のセミナーなどを通じて、グループ全体の意識の向上に努め、社会からの信頼に常に誠実に応えていきたいと考えています。詳しくは、「内部統制」(P27)をご参照ください。

■ コンプライアンスの取り組み

当社グループ各社のコンプライアンス担当役員が参加する「グループコンプライアンス等担当者会議」、実務を行うメンバーによって構成された「グループコンプライアンス等実務者会議」のそれぞれを年2回実施しています。「グループコンプライアンス等担当者会議」は、当社グループ各社に関連する最新の法令・規制動向の情報共有や、コンプライアンスの取り組みに関する情報共有を行います。

当社グループにおいて多様な「価値」を生み出す要となるのは「人」です。ジェンダーや年齢に関わらず、全ての従業員・スタッフが個性を發揮し生き活きと働くことができること、安心して働き続けられる環境があることは、事業活動を円滑に循環させ、永続させていくために不可欠と考えています。番組コンテンツの制作現場をはじめ、すべての職場で業務の効率化を図り、時間外労働の短縮に取り組むと共に、養育休職や時短制度などを積極的に導入して、従業員のワーク・ライフ・バランスの向上と個々のキャリアビジョンの実現をめざします。

ダイバーシティ宣言

DINOS CORPORATION



お客様のライフスタイルをかなえるという当社事業の使命に応えるため、人材においても多様性があることを大切にしています。新たな価値を創造するため、多様な人材が集う企業であることが重要であり、性別、年齢、地域、国籍・文化、障害の有無、キャリア、ライフスタイル等、様々な従業員のバックグラウンドを尊重し、活かしていきます。

●公式サイト <https://dinos-corp.co.jp/sustainability/susvision/diversity/inclusion/index.html>

働き方改革

ポニーキャニオン

フリーアドレス、テレワークの推進、ビジネスチャットやクラウド会計ソフト等の導入による、どこでも働ける環境の整備。パパママ社員サポート、新評価制度、新マネジメント研修の導入による、個々の社員の状況に寄り添える環境の整備。これらを通じて、2022年のSDGs宣言に向け、ダイバーシティ&インクルージョンの土台を整えました。

●公式サイト <https://www.ponycanyon.co.jp/sustainability/priority/index.html#Link02>

障害者雇用

フジアール

フジアールでは2015年から障害者雇用に取り組み、現在は3名を雇用しています。

仕事内容は、番組に使われるセットパネルのメンテナンス作業で、木製のパネルに紙を貼ったり剥がしたりしています。

また大工として、番組の大道具製作に携わったり、社内使用の木工作具を製作することもあります。今後も活躍が期待されています。

各社の取り組み

以下のホームページをご覧ください。

- ・フジテレビジョン 人材育成・職場環境 <https://www.fujitv.co.jp/sustainability/worklife/humanresource.html>
- ・サンケイビル 人的資本への取り組み <https://www.sankeibldg.co.jp/sustainability/employees.html>
- ・グランビスタ ホテル&リゾート 各種制度とキャリア <https://www.granvista.co.jp/recruit/career/>
- ・フジミック 「ワーク・ライフ・バランス」への取り組み <https://www.fujimic.com/corporate/csr/worklife.html>

人材の多様性

人事データ (主要子会社10社)

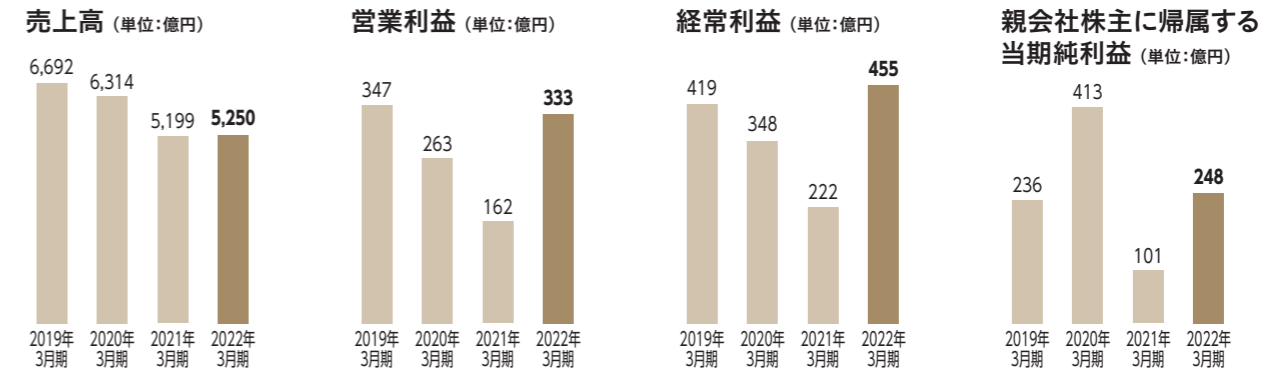
※フジテレビジョン・BSフジ・ニッポン放送・共同テレビジョン・フジクリエイティブコーポレーション・ポニーキャニオン・DINOS CORPORATION・クオラス・サンケイビル・グランビスタホテル&リゾート

	従業員数	新卒採用人数	中途採用人数	外国人採用人数	女性従業員比率	女性管理職比率
2020年度	4,103	162	74	8	32.8%	20.1%
2021年度	3,653	69	52	3	33.2%	19.5%

業績ハイライト

ポイント

- 売上高は、メディア・コンテンツ事業が減収、都市開発・観光事業が増収となり、全体で増収。
- 営業利益は、メディア・コンテンツ事業、都市開発・観光事業がともに増益となり、全体で増益。
- 経常利益、親会社株主に帰属する当期純利益は増益。

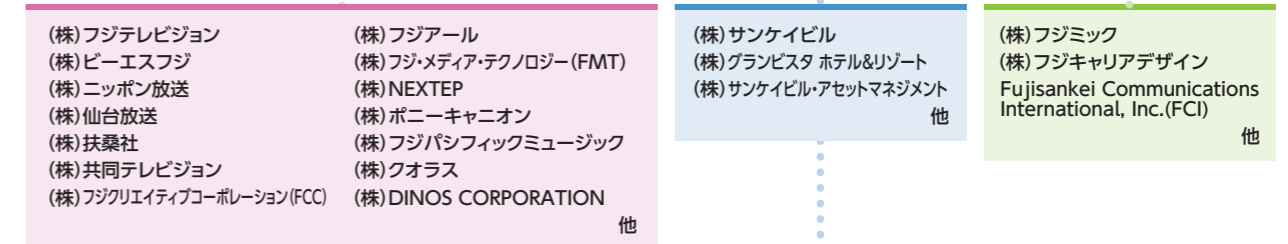


2022年3月期のセグメント別売上高構成比 (%)



※このグラフの各構成比は、セグメント間の内部売上高等の調整額(△131億24百万円)を含む比率です。

組織概略



主な子会社の業績 (単位: 百万円)

	フジテレビジョン		BSフジ		株式会社ポニーキャニオン		株式会社DINOS CORPORATION		株式会社サンケイビル	
	2021年3月期	2022年3月期	2021年3月期	2022年3月期	2021年3月期	2022年3月期	2021年3月期	2022年3月期	2021年3月期	2022年3月期
売上高	217,577	238,240	14,305	14,866	31,006	30,815	101,904	60,462	52,059	76,214
営業利益	5,071	11,280	1,948	2,263	2,119	2,409	2,012	1,327	8,884	13,398

関連会社 (株)産業経済新聞社、(株)フジランド、日本映画放送(株) 他